

# 子どもがグングン伸びる 最新の脳科学



自己肯定が出来る子どもは、グングン伸びる！

子育てをしている家庭では、子どもに『片付けなさい』と言うけれど、言うことを聞いてくれないという経験はありませんか？「いつも出しっぱなしで子どもの片付けに追われる」「毎回言わないと片付けない」etc.。子どもがいる家庭では、こんなため息まじりの悩みがよく聞かれます



でも、なぜお子さんが片付けられないのか考えたことってありますか？一口に“片付ける”といっても、やり方を知らなければどう片付けて良いか分かりません。“子どもひとりで”を望むなら、まずは片付け方を教えることが大切です。

お片付けができるようになるためには、いくつかのステップがあります。

一つ目は「物の区別がつくこと」。たとえば、勉強に使う物か、遊びに使う物かといった区別ができるないと、机の中はおもちゃや勉強道具でぐちゃぐちゃといったことになってしまいます。



二つ目が「物には住所があると知ること」。住所とは置き場所のこと。物には決められた置き場所があり、その場所を覚えなければお片付けはできません。

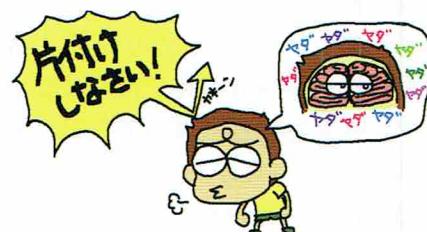


そして三つ目が、「使ったらすぐに元の場所に戻すこと」。



最初から3つ全ては難しすぎるので1つずつ！

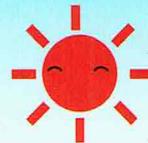
私たちの脳は好きなこと以外はなかなか覚えようとしません。片付けに関しても、お母さんが怖い顔で「片付け無さい」と言つていれば、子どもは当然楽しくありませんから、いやいや片付けることになります。ということは、片付けの仕方は中々頭に入つてこないので。ただでさえ、頭がヤダヤダ状態になっているのに、さらに複数のことを言われたら子どもの脳は何をしたら良いのか分からなくなってしまいます。



ですから、“まずはひとつ”から始めてみましょう。「机だけ」など、ここだけはという場所をひとつ決め、「住所を教える」ことから実践していきましょう。最初は決めた場所の他は何も言わないのがうまくいくコツです。そうやっていくうちに片付け方が身につきます。そうしたら段々と“ここだけ”スポットを広げていくと、自然に“ひとりでお片付け”ができるようになるでしょう。



# 目ざせ！スポーツ選手



## プロのスポーツ選手に必要な力を 生活の中で身につけよう！



### 子どもたちの“共通理解”と“個性”

あるコーチと話をしていたとき、そのコーチが次のようなことを言っていました。「日本人は“意見の食い違いを人格否定につなげる”傾向があると感じることがある」。海外生活の経験をお持ちの方ならお分かりいただけるかもしれません、日本人は意見を闘わせるのが苦手です。海外では、ひとつつの問題に対してみんなで意見を交わすのは普通のことです。また、その意見が一致しないのは当然とも言えるでしょう。なぜなら、人はみなそれぞれに異なった感覚や価値観を持っているからです。意見が一致することのほうが稀と言っても過言ではありません。



### 這い上がるよりも、蹴落としたほうが楽！?

スポーツの世界でも指導者の“一人ひとり”が強烈な個性を持っていることがあります。当然、意見などまとまらないことがほとんどです。自分の現役時代の経験、慕ってきたコーチの影響、ポジション特性などによって、独自の“哲学”があるのです。しかし、残念ながら意見の食い違いを人格否定につなげてしまう人がいます。特に、日本では公衆の面前ではほとんど意見を言わないけれど、影で噂をすることが良くあります。

子どもたちの中で、チームについて話し合いを持つたとしても、中途半端な意見交換で終わってしまうと「あいつ、あんなこと言ってたぜ、最低だな」「頭おかしいんじゃねえか」と、後になって後ろ指を指されることもあるのです。特に、育成年代の子どもは自分の成長が第一です。這い上がるためには、他者と共存するよりも、蹴り落としたほうが楽で安心だという気持ちが働くのです。

### 安易な話し合いかえって亀裂を作ってしまうかも…。

ですから、まずは適当な意見交換で済ませずに、徹底的に議論することが必要です。そして、その意見に至った理由や経緯についても耳を傾けましょう。時には「何度も理由を聞いても納得できない」という部分も出てくることでしょう。しかし、私はそれでいいと思います。



## 運動療育こともプラスグループ

お問い合わせはこちらから→TEL:0120-970-421

「参加を希望する教室の住所または  
地域をオペレーターに申し添えてください。」

